

野坂建設株式会社 環境経営レポート

2023年度版(第13版)

対象期間 : 2023年6月1日～2024年5月31日

発行日 : 2024年12月23日

ゆめ環境



NOSAKA
KENSETSU

■ 目次	1
■ 組織概要	2
■ 事業内容	3～5
■ 事業規模	6～7
■ EA21対象範囲	8
■ 経営における課題とチャンス	9
■ 環境経営方針	10
■ 環境経営目標/環境経営計画	11～12
■ 2023年度 環境経営目標・活動計画に対する実績	13～14
■ 2023年度 環境経営活動報告	15～16
■ 環境関連法規と遵守状況	17
■ 2024年度 環境経営マネジメントについて	
1. 対象の組織と活動	18
2. 実施体制	18
3. 2024年度 環境経営目標	19
4. 2024年度 環境経営活動計画	20
■ 代表者による総合評価	21
■ Brand Concept	22

組織概要

- 事業者名 野坂建設株式会社
- 代表者 代表取締役社長 野坂 輝和
- 設立 1973年4月2日
- 資本金 4,000万円
- 従業員数 19名

役員				2 名
所属拠点	部門	正社員	準社員	計
本社	住宅営業部	3 名	0 名	3 名
ゆめ環境	環境事業部	6 名	0 名	6 名
	経営推進部	4 名	2 名	6 名
	未来デザイン室	0 名	0 名	0 名
水巻支店	企画開発工務部	2 名	0 名	2 名
合計				19 名

- 売上高 59,605万円（2024年5月決算/50期）
- 拠点
本社：福岡県北九州市若松区高須東三丁目6番9号
ゆめ環境：福岡県遠賀郡遠賀町大字尾崎1712-45
水巻支店：福岡県遠賀郡水巻町杵2丁目1番13号
- 事業内容
土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業、
建築工事業、産業廃棄物・一般廃棄物処理業（中間処理）、産業廃棄物収集運搬業
土壌改良材生産・販売（現在は生産・販売休止中）
- EA21責任者 環境部 原 浩司
- EA21事務局 担当者：梶原 芳恵
TEL：093-701-5216
E-mail：nosaka1@cronos.ocn.ne.jp

新たな製品へリサイクル

暮らしのなかで必ず発生する廃棄物。

私たちはその廃棄物をリサイクルし、地域の暮らしを支える製品をつくっています。



木くずリサイクル

道路や河川保全で発生した草木、建物解体等で発生した木材、災害時に発生した木くずなどの収集運搬およびリサイクル処理を行っています。

当社施設にて選別・破碎を行い、バイオマス発電用の燃料や堆肥の原料に生まれ変わり、100%リサイクルされます。



処理フロー



廃棄物収集運搬

産業廃棄物や中間処理後のリサイクル品の収集運搬を行っています。2t車から10t車までのラインナップで、最適な車両で効率的に運搬します。

保有設備

運搬車両	10t車：1台、4tダンプ車：1台、2tダンプ車：2台
建設機械	油圧ショベル0.45級：3台、油圧ショベル0.1級：1台
中間処理設備	移動式破碎機（353t/日）：1台

くらしの礎をつくる

毎日の生活を支える住まい。
その住まいを構成する素材や空間づくりなど
ひとつひとつにこだわり、ライフスタイルの
実現をサポートします。

コンセプト



夢空間

夢

家族の笑顔あふれる
未来がつまった
夢の家を

空

空と大地、太陽や風などの
自然の力を活用した
素材や仕様で

間

機能的な収納や家事動線でゆ
とりのある空間をつくり住む人の
間合いを豊かなものに

新築・注文住宅

省エネで災害に強く長持ちする家で、安心して快適
に過ごしていただけたら、さまざまな仕様が
ラインナップしております。お客さまに寄り添いな
がら、夢が実現する空間を提案します。



オフィス・商業建築

その会社のポリシーや経営者の想いを形にする方法
として、オフィスや店舗などの建物があると考えて
います。想いを基にデザインから施工まで一貫して
サポートしています。



住宅事業に関わる有資格

建築士（2級）	建築施工管理技士（1級）	土木施工管理技士（1級）	宅地建物取引主任者
防蟻防腐施工認定施工者	排水設備責任技術者	測量士補	福岡県被災宅地危険度判定士
福岡県被災建築物危険度判定士	木住協・リフォーム診断員	既存住宅状況調査技術者	増改築相談員
損害保険募集人一般試験基礎単位	木造ハウジングコーディネーター		

農業でやさしい地域を創造

野坂建設も地域市民の一人です。
農業を通じて、この遠賀川地域ならではの
やさしさのあふれるまちづくりを目指しています。



にんにくの栽培・販売

地元地域と連携し、約2500坪の圃場でオリジナルブランド「Kingにんにく」を栽培しています。Kingにんにくは、JASオーガニック認証を取得しており、有機栽培にも取り組んでいます。

生産品目

Kingにんにく

一般的なにんにくの約5倍もの大きさで、水分が多くジューシーな味わいと匂いが少ないことが特徴。ホクホクした食感を楽しめます。



Kingにんにく・くろ

Kingにんにくを高温高湿な環境で熟成させたものです。熟成すると糖度・抗酸化作用のある成分が増加。健康促進が期待できます。



栽培・販売はグループ会社の有限会社ゆめ環境にて実施しています。

堆肥製造

当社にて処理を行っている一般廃棄物を活用し、土壌改良材「ゆめ育土」を生産しております。遠賀川河川敷の除草作業や造園業の樹木伐採工事から排出された草や樹木を使用し、化学薬品を使わず地球に優しい、安心安全の100%リサイクル商品です。



とき爺ファーム



遠賀川が近くを流れる、水巻町にある「とき爺ファーム」でKingにんにくを栽培しています。

畑の一部では、土壌改良材による生産実証試験地としても活用。産学民で連携した共同研究を行っており、新たな視点からの地域農業発展への貢献も目指しています。

研究名「微細藻類を用いた土壌改良材による高付加価値でかにんにくの生産実証試験」
(統括責任研究者：東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 教授 江口 文陽)



1. 許認可の範囲

許可名	許可自治体	許可番号	許可年月日 許可有効期限	事業範囲等
建設業	福岡県	(特-4) 第25068号	2017年8月4日 2027年8月3日	建築工事業、とび・土工工事業、 水道施設工事業、解体工事業
建設業	福岡県	(般-4) 第25068号	2019年10月11日 2027年11月 1日	土木工事業、舗装業
産業廃棄物 処分業	福岡県	第4020058381号	2015年10月7日 2029年10月6日	中間処理（破碎(移動式含む)） 木くず [優良]
産業廃棄物 処理施設設置	福岡県	第608号	2017年3月8日 —	中間処理（破碎(移動式含む)） 木くず
一般廃棄物 処分業	遠賀・中間地 域広域行政 事務組合	第5号	2023年6月1日 2025年5月31日	一般廃棄物（剪定枝、伐採材、草、 竹、根株）の処分 災害廃棄物（木くず）の処分
一般廃棄物 処理施設設置	遠賀・中間地 域広域行政 事務組合	第7号	2005年8月26日 —	ごみ処理施設 [破碎施設(固定式兼移 動式)] 木くず、草
産業廃棄物 収集運搬業	福岡県	第4000058381号	2021年12月26日 2026年12月25日	廃プラスチック類、金属くず、ガラ スくず等、紙くず、木くず、がれき 類
肥料販売 業務開始	福岡県	第2160号	2002年7月19日 —	土壌改良材
特殊肥料 生産業者	福岡県	第4920号	2003年9月17日 —	土壌改良材

2. 廃棄物処理量

2023年度・50期（2023年6月～2024年5月）実績

（単位：t）

産業廃棄物収集運搬量	323.34
産業廃棄物・一般廃棄物処分量	9,765.32

産業廃棄物収集運搬量 詳細

（単位：t）

区分	廃棄物の種類	収集運搬量
産業廃棄物	廃プラスチック類	0.00
	紙くず	0.00
	木くず	323.34
	金属くず	0.00
	ガラスくず等	0.00
	がれき類	0.00
合計		323.34

産業廃棄物・一般廃棄物処分量 詳細

（単位：t）

処分方法	廃棄物の種類	処分量	最終処分方法	最終処分量
中間処理 （破碎）	木くず	2699.96	再資源化（発電燃料として売却）	2699.96
	草・小枝	5935.83	再資源化（土壌改良材製造用チップとして売却）	5935.83
	樹木	557.81	再資源化（発電燃料として売却）	557.81
	竹	266.00	再資源化（発電燃料として売却）	266.00
	根株	305.72	再資源化（発電燃料として売却）	305.72
処分量合計		9765.32	最終処分量合計	9765.32
			再資源化率	100%

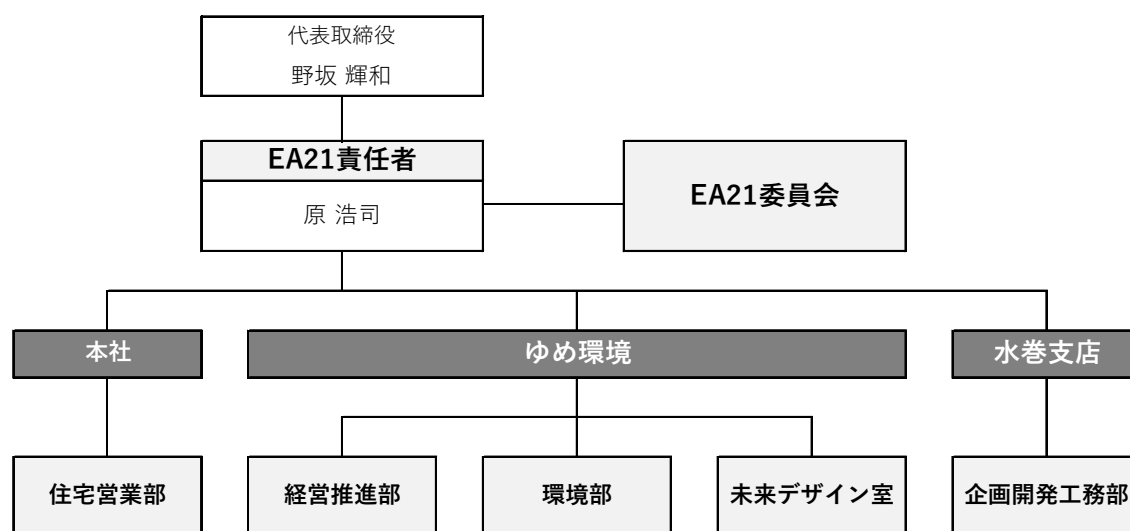
1. 対象の組織と活動

対象組織 本社、ゆめ環境、水巻支店

対象活動

- (1)土木工事業
- (2)とび・土工工事業
- (3)舗装工事業
- (4)水道施設工事業
- (5)解体工事業
- (6)建築工事業
- (7)産業廃棄物・一般廃棄物処理業（中間処理）
- (8)産業廃棄物収集運搬業

2. 実施体制



役割・責任・権限

代表者	1 EA21責任者の任命 2 経営における課題とチャンスの明確化 3 環境経営方針の策定 4 経営資源の準備・確保 5 環境経営システム全体の評価と見直し
EA21責任者	1 EA21システムの確立、実施推進、維持管理 2 環境経営レポートの作成 3 環境経営目標及び環境経営活動計画の策定 4 環境教育の統括 5 EA21に関する実績把握と報告
EA21委員会	1 EA21責任者の補佐業務 2 環境経営目標及び環境経営活動計画の実施促進・管理 3 環境教育の実施 4 その他EA21に関する業務全般
従業員	1 環境経営活動の実施 2 問題点の是正処置の実施

経営における課題とチャンス

当社の事業内容や組織を取り巻く状況、事業と環境の関わりなどを考慮し、経営における課題とチャンスを整理しています。

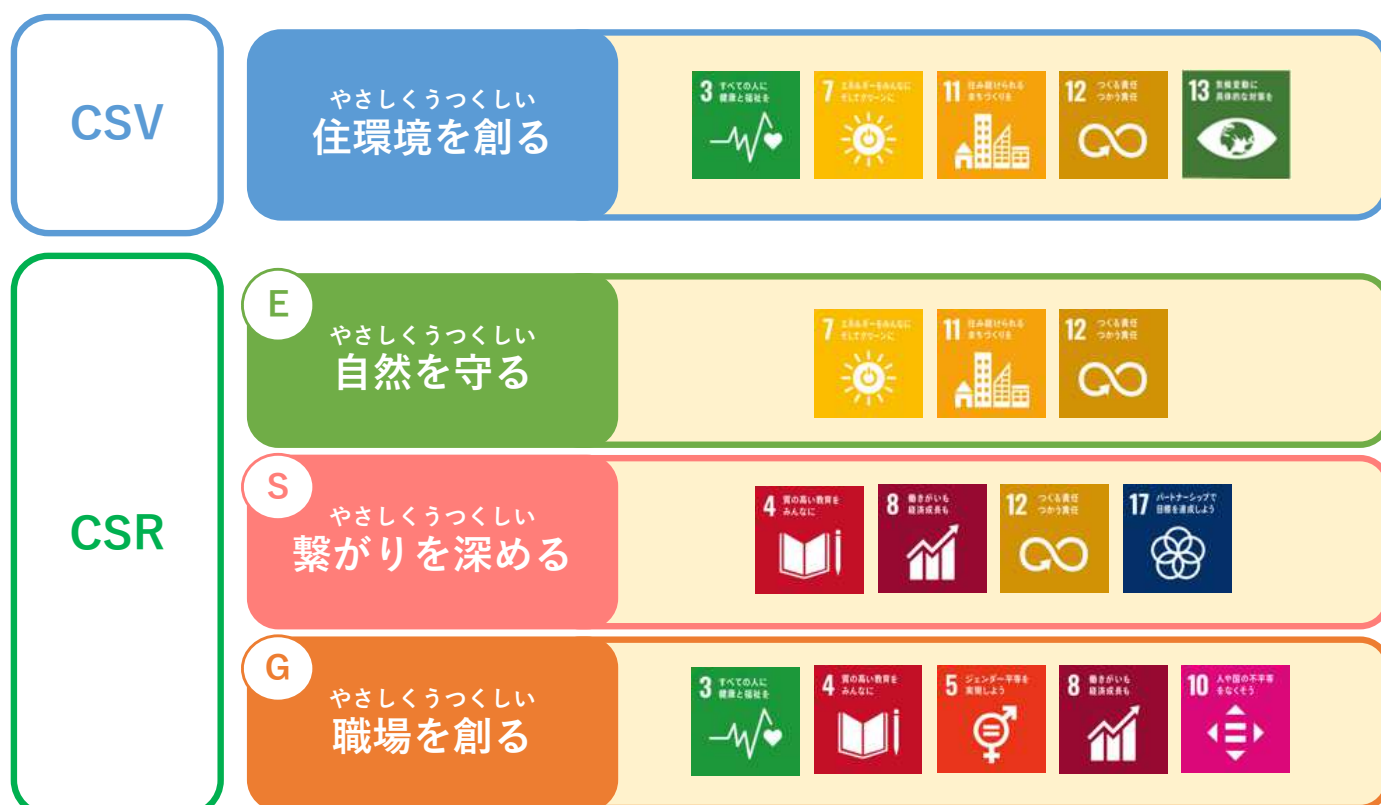
野坂建設の経営における課題とチャンス

	課題	チャンス
外部環境	・物価の高騰	・市場経済に基づいた適正価格への移行
	・脱炭素・脱石炭の加速→エネルギー関連	・FITに依存しないサーマルリサイクル
	・建設業の人材不足・高齢化	・シニア人材の活躍
	・IT・IoTの活用	・ITリテラシーの育成環境増加
	・人口減少・人手不足	・省力化・省人化に関する国の補助拡大
内部環境	・品質管理体制の構築と運用	・ITリテラシーの高い人材増加
	・社員の教養	・部門別採算管理による事業運営
	・変化に乏しい社内文化	
	・管理者の育成（事業承継）	
	・雇用（採用活動・人材育成）活動が停滞	
	・知識・ノウハウ等の属人化	

整理した結果をもとに、CSR方針を定めています。CSR方針は、事業活動を通じて経済的価値と社会的価値を共に生み出すCSVと環境・社会・ガバナンスの側面で課題解決を目指すESGの観点で重点項目を定めています。この中のE・環境を中心とした取り組みを、エコアクション21のマネジメントシステムで運用しています。

また、重点項目とSDGsとの関連づけも行い、持続可能な社会の実現を目指しています。

野坂建設のCSR方針



環境経営方針

環境理念

私たちは、自社の付加価値を発揮した事業活動を通じ、ステークホルダーに対して地球環境にもやさしい暮らし方の提案を行い、未来のうつくしい地球環境を創造します。

今後も、環境経営の継続的改善に努めます。

行動方針

1. やさしくうつくしい住環境を創る

- ・自然共生の住宅等インフラ整備
- ・木質資源の有効活用の研究開発
- ・持続可能な都市（環境）づくりの推進

2. やさしくうつくしい自然を守る

- ・事業活動に必要な水、エネルギー資源の省力化
- ・事業活動に伴い排出される廃棄物抑制・環境配慮型商品の採用
- ・関連する環境法規・条例及び我が社が定めたその他の事項を遵守

3. やさしくうつくしい繋がりを深める

- ・環境啓発イベントの開催と地域ボランティアへの参画
- ・ステークホルダーへの感謝とさらなる連携強化
- ・自然災害など有事に対しての対応の円滑化

4. やさしくうつくしい職場を作る

- ・自らのいきがいとお客様への誇り、家族への感謝を持って仕事できる環境改善と整備
- ・人材教育、キャリア形成と適正な人事考課及び分業の仕組運用
- ・安全第一な職場形成に向けた労働安全衛生教育の強化

制定日：2012年5月7日

改定日：2020年6月1日

野坂建設株式会社

代表取締役 野坂 輝和

環境経営目標

KPI項目	サイト 区分	単位	基準年	中期目標		
			2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1. CO ₂ 排出量削減						
CO ₂ 排出量	全体	(kg-CO2)	250,189	1%削減	2%削減	3%削減
				247,687	245,185	242,683
	事務所	(kg-CO2)	30,837	30,529	30,220	29,912
	破砕施設	(kg-CO2)	217,737	215,560	213,382	211,205
現場	(kg-CO2)	7,103	7,032	6,961	6,890	
電気使用量の削減						
	全体	(kWh)	43,677	1%削減	2%削減	3%削減
				43,240	42,803	42,367
	事務所	(kWh)	22,602	22,376	22,150	21,924
	破砕施設	(kWh)	1,929	1,910	1,890	1,871
	現場	(kWh)	19,146	18,955	18,763	18,572
(kWh/現場)						
燃料使用量の削減						
	破砕施設 軽油 (自社搬入出 量あたり)	(L)	83,936	1%削減	2%削減	3%削減
				83,097	82,257	81,418
		(L/t)	6.72	6.66	6.59	6.52
	事務所 ガソリン	(L)	7,320	7,247	7,174	7,100
2. 廃棄物排出量の削減						
一般廃棄物排出量	事務所	(kg)	150	1%削減	2%削減	3%削減
				148.5	147.0	145.5
社員1人あたり一般廃棄物排出量	事務所	(kg/人)	7.89	7.82	7.74	7.66
建設廃棄物再資源化率	現場	(%)	69.5	70.5	71.5	72.5
3. 水資源使用量の削減						
水使用量	事務所	(㎡)	916.0	1%削減	2%削減	3%削減
	破砕施設			906.8	897.7	888.5
搬入量あたり水使用量	破砕施設	(㎡/t)	0.109	0.108	0.107	0.106
4. グリーン購入の推進						
グリーン購入品目数（事務用品等）	事務所	(点)	36	維持	維持	維持
				36	36	36
5. 環境保全活動の実施						
地域活動参加回数	全体	(回)	8	維持	維持	維持
				8	8	8
6. 地域における住環境の課題解決						
住宅建築棟数	事務所	(棟)	3	増加	増加	増加
				7	8	9
中間処理後資源物(木チップ等)搬出量	破砕施設	(t)	8,591	増加	増加	増加
				8,991	9,391	9,791

事業年度 6月1日～翌年5月31日

- ・CO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り

〔事務所、破砕施設〕ミツウロコヴェッセル 調整後排出係数 0.469kg-CO₂/kWh

〔建設現場〕九州電力 調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh

- ・自社で購入・使用する化学物質はないため、化学物質使用量削減目標は除外

KPI項目	サイト 区分	活動内容	担当
1. CO ₂ 排出量削減			
電気使用量の削減	全体	①未使用時の電気消灯の徹底	環境事業部
		②設備電気不要時の負荷遮断	
		③設備のアイドリングストップ	
		④業務IT化による残業時間削減	
		⑤昼休みの消灯	
		⑥建築現場での節電奨励	
燃料使用量の削減	事務所 破碎施設	①エコドライブの推進	環境事業部
		②アイドリングストップの徹底	
		③重機の定期検査	
		④破碎作業の効率的実施	
		⑤破碎機稼働後の清掃	
		⑥運搬車両の燃費推移計測	
2. 廃棄物排出量の削減			
一般廃棄物排出量	事務所	①廃棄物の分別徹底	住宅営業部
		②リユース・リサイクル活動の展開	
		③排出量の秤量管理	
		④5S活動の実施	
建設廃棄物再資源化率向上	現場	①廃棄物管理を強化し排出実績を分析	住宅営業部
		②分別方法の見直し	
		③リサイクル委託先の見直し・検討	
3. 水資源使用量の削減			
水使用量	事務所 破碎施設	①重機や車両等の計画的洗車実施	経営推進部
		②破碎作業時の計画的散水実施	
		③雨水の活用検討	
4. グリーン購入の推進			
グリーン購入品目数（事務用品等）	事務所	①5S活動による備品の在庫管理徹底	経営推進部
		②購入時の調査検討	
5. 環境保全活動の実施			
地域活動参加回数	全体	①対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施	未来デザイン室
		②地域開催のセミナー等での登壇	
		③地域開催のイベントへの参加	
		④地域団体やイベント等への協賛・寄付の実施	
6. 地域における住環境の課題解決			
住宅建築棟数	事務所	①モデルハウスへの来場活動実施	住宅営業部
		②定期イベントの開催	
		③SNS、HP等メディアでの情報発信	
		④ZEH住宅の提案・発信	
中間処理後資源物(木チップ等)搬出量	破碎施設	①既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施	環境事業部
		②業務IT化による営業活動時間の確保	

2023年度 環境経営目標・活動計画に対する実績

1. 2023年度 環境経営目標 実績評価

項 目	サイト 区分	単位	基準年	2023年度実績					総評
			2022年度	目標	実績値	達成率	判定		
1. CO ₂ 排出量削減									
CO ₂ 排出量	全体	(kg-CO2)	250,189	247,687	357,241	69%	×	CO2排出量の約90%が破碎施設となっている。軽油の使用量の増加が主な要因である。機械や車両のEV化も今後検討していかなくてはならない。	
	事務所	(kg-CO2)	30,837	30,529	39,791	77%	△		
	破碎施設	(kg-CO2)	217,737	215,560	314,431	69%	△		
		(kg-CO2/万円)	14.51	14.37	18.66	77%	△		
	現場	(kg-CO2)	7,103	7,032	3,019	233%	◎		
電気使用量の削減									
	全体	(kWh)	43,677	43,240	34,023	127%	◎	日頃から節電を意識する事が身についてきた。また現場の電気も大きな現場が減った為、達成に繋がりました。	
	事務所	(kWh)	22,602	22,376	24,237	92%	△		
	破碎施設	(kWh)	1,929	1,910	1,884	101%	○		
	現場	(kWh)	19,146	18,955	7,902	240%	◎		
		(kWh/現場)	445.3	440.8	168.1	262%	◎		
燃料使用量の削減									
	破碎施設 軽油 (自社搬入出 量当たり)	(L)	83,936	83,097	121,530	68%	×	軽油の使用量は前年度、1ヶ月以上機械が止まった為、前年度が少なかった。また自社配送便の増加で大幅に上がっている。今後は、前処理機、小割機等をうまく活用し、使用量の削減を目指します。	
		(L/t)	6.72	6.66	7.65	87%	△		
	事務所 ガソリン	(L)	7,320	7,247	12,252	59%	×	ガソリンの使用量は現場数の増加、営業活動の増加で増えている。	
2. 廃棄物排出量の削減									
一般廃棄物排出量	事務所	(kg)	150	148.50	105	141%	◎	社員1人ひとり分別が身に付き自然と出来るようになった。また、小さな活動がSDGsのゴール11・12にも通じることを啓発し、日々少しずつ削減を行った。	
社員1人あたり 一般廃棄物排出量	事務所	(kg/人)	7.50	7.43	5.25	142%	◎		
建設廃棄物再資源化率	現場	(%)	69.5	70.2	69.4	99%	△	建築現場の敷地状況により分別BOXの配置が難しい場所もあった。	
3. 水資源使用量の削減									
水使用量	事務所& 破碎施設	(㎡)	916.0	906.8	941	96%	△	施設内における破碎中の効率の良い計画散水を行ってはいるが散水は天候、風向きに左右されやすいため多少の増加となったと思われる。	
搬入量あたり水使用量		(㎡/t)	0.109	0.108	0.097	111%	○		
4. グリーン購入の推進									
グリーン購入品目数 (事務用品等)	事務所	(点)	36	36	37	103%	○	グリーン購入品の定番使用ができています。今後も継続する。	
5. 環境保全活動の実施									
地域活動参加回数	全体	(回)	8	8	8	100%	○	EA21も、SDGs活動も良い結果が出ている。引き続き意識高く活動をしていく。	
6. 地域における住環境の課題解決									
住宅建築棟数	事務所	(棟)	3	7	8	114%	○	数値化し、ベルソナへの 集客を仕掛ける事による成果が出ている	
中間処理後資源物搬出量	破碎施設	(t)	8,591	8,991	9,139	102%	○	自社引き取り分の増加で搬入量が増えた為、搬出量の増加に繋がっている。	

- ・ 事業年度 6月1日～翌年5月31日
- ・ 評価区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100～120%、△：70～100%、×：70%以下、－：判定不可
- ・ 電力のCO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り
 [事務所、破碎施設] ミツウロコヴェッセル 調整後排出係数 0.469kg-CO₂/kWh
 [建設現場] 九州電力 調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh
- ・ 自社で購入・使用する化学物質はないため、化学物質使用量削減目標は除外

2023年度 環境経営目標・活動計画に対する実績

2. 2023年度 環境経営活動計画 活動評価

KPI項目	サイト 区分	活動内容	活動評価				総評
			6-8月	9-11月	12-2月	3-5月	
1. CO ₂ 排出量削減							
電気使用量の削減	全体	①未使用時の電気消灯の徹底	○	○	○	○	①～⑥の活動は全て実施できている。⑥の項目は今回新たに加わり現場での意識も少しずつ変わった。
		②設備電気不要時の負荷遮断	○	○	○	○	
		③設備のアイドリングストップ	○	○	○	○	
		④業務IT化による残業時間削減	○	○	○	○	
		⑤昼休みの消灯	○	○	○	○	
		⑥建築現場での節電奨励	○	○	○	○	
燃料使用量の削減	事務所 破砕施設	①エコドライブの推進	○	○	○	○	活動は概ねできているが大型自小便の増加により軽油使用量は増加してしまっている。前処理機、小割機を活用して無駄な燃料の使用をしないようにしていく
		②アイドリングストップの徹底	○	○	○	○	
		③重機の定期検査	○	○	○	○	
		④破砕作業の効率的実施	○	○	○	○	
		⑤破砕機稼働後の清掃	△	△	△	△	
		⑥運搬車両の燃費推移計測	○	○	○	○	
2. 廃棄物排出量の削減							
一般廃棄物排出量	事務所	①廃棄物の分別徹底	○	○	○	○	①～④の活動はほぼできている。今後も継続して行っていく。
		②リユース・リサイクル活動の展開	○	○	○	○	
		③排出量の秤量管理	○	○	○	○	
		④5S活動の実施	○	○	○	○	
建設廃棄物再資源化率向上	現場	①廃棄物管理を強化し排出実績を分析	△	○	△	△	今後は建築棟数が増えていく中で、石膏ボードの使用量も増えていく。法22条区域エリアの建築がほとんどを占めており、石膏ボードを使用せずに建築するのは、不可能である。今後は、石膏ボード以外の再資源化の見える化をし、目標値を設定する。
		②分別方法の見直し	○	○	○	○	
		③リサイクル委託先の見直し・検討	△	△	△	△	
3. 水資源使用量の削減							
水使用量	事務所 破砕施設	①重機や車両等の計画的洗車実施	○	○	○	○	破砕時の計画的散水は風向き、風の強さに応じ必要な時のみ行っている。雨水も埃の飛散防止に役立つ時もあり雨天時を狙って破砕するときもあります。
		②破砕作業時の計画的散水実施	○	○	○	○	
		③雨水の活用検討	△	○	△	△	
4. グリーン購入の推進							
グリーン購入品目数 (事務用品等)	事務所	①5S活動による備品の在庫管理徹底	○	○	○	○	日常的に購入時のグリーン商品調査と在庫管理を実施
		②購入時の調査検討	○	○	○	○	
5. 環境保全活動の実施							
地域活動参加回数	全体	①対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施	○	○	○	○	①は定期的に出来ている。 ②～④は下半期、人員不足により実行する事が出来なかった。
		②地域開催のセミナー等での登壇	○	○	×	×	
		③地域開催のイベントへの参加	×	○	×	×	
		④地域団体やイベント等への協賛・寄付の実施	○	○	×	×	
6. 地域における住環境の課題解決							
住宅建築棟数	事務所	①モデルハウスへの来場活動実施	○	○	○	○	①～④の活動は定期的に実施出来きている。市場や経済によって大きく影響されやすい建築棟数ではあるが引き続き、ブランディングを共有・発信して安定受注を目指していく。
		②定期イベントの開催	○	○	○	○	
		③SNS、HP等メディアでの情報発信	○	○	○	○	
		④ZEH住宅の提案・発信	○	○	○	○	
中間処理後資源物 (木チップ等)搬出量	破砕施設	①既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施	○	○	○	○	新規顧客、新規搬出先は確実に増えていっている。今後も増加できるようにしていく。
		②個別チップ搬出先増加の活動	○	○	○	○	

1 節電の徹底

事務所を留守にする時や、使用していない箇所では小まめに消灯を行ったり、帰社時にはパソコンの主電源を切り、使用電力を抑えております。

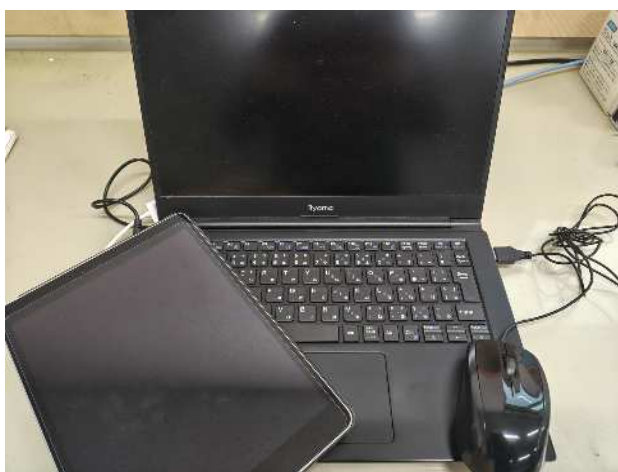
また、近年の温暖化現象により熱中症対策が必要です。体調管理に注意しつつ空調機器での使用電力の増加に対応する為、電気を使用する箇所に貼り紙をし社員一人一人が日頃から節電する事を意識するよう取り組んでいます。



2 紙資源の再利用・DX推進

限りある資源を無駄なく使用する為に印刷物は、両面印刷を行い、再資源化100%の企業へ回収を依頼しております。

またDX推進委員を各部署から選出し、アプリの作成、業務の自動化、データ分析のツールの学習を行い、各部署で使えるようになり印刷物の削減や生産性向上へと繋がりました。



3 破碎機の清掃徹底

当社のCO2排出量の起因エネルギーで1番を占めているのが軽油使用によるもので、中でも環境事業の木くず破碎機が多くの軽油を使用しています。

設備メンテナンスの一つとして、破碎作業を行った後に必ず清掃を行っています。破碎すると細かなチップやくずが設備のあらゆるところに入り、稼働効率に影響を与えます。設備清掃までを一連の作業とすることで、日常的な負荷低減に努めています。



4 破碎作業の効率化

破碎機の軽油使用量削減に向けて、もう一つ力を入れているのが、破碎作業の効率化です。

資源物として納品する規格に合致した本破碎を行う前に、前処理を施すを導入しました。太い丸太などは前処理として粗破碎を行います。これにより、本破碎設備の負荷が低減し、総合的にエネルギー使用量を抑えることができました。



5 地域清掃の実施

地域活動の1つとして、清掃活動を行っております。道路に落ちているゴミ拾いや、草刈りを行い、社員の環境に対する意識への向上に繋げております。日頃から、周辺を綺麗にする事で、道路にゴミを捨てる人も少なくなってきました。

また、この活動を定期的に行う事で、地域の方からも声をかけて頂き、より親しみやすさを感じて頂いております。



6 小学生への環境教育

地域の小学生を対象に環境出前講座を毎年実施しております。この講座では、ゴミを分別する事の大切さや、排出されたゴミが、どのように処理されているかを説明し実際に収集車へ投函や分別体験を行って頂いてます。

この活動は、ボランティアの大学生や社員も一緒に取組み、多くの人に、一人一人の小さな行動が大きな問題解決に繋がっている事を理解して頂いております。



7 Webサイト・SNS等での情報発信

建設事業「夢空間」の家づくりにおける住まいの環境側面取り組みを多くの方に知っていただくために、専用のWebサイトやSNSで情報発信を行っています。耐震や断熱などの住宅仕様や施工事例、夢空間の家を体験いただけるイベント情報などを発信し、多くの方にご覧いただいています。また、スタッフブログも定期更新し、大切に大きな住まいのお買い物を伴走していくための信頼関係構築にも繋がっています。今後も継続して情報発信を行ってまいります。



8 モデルハウスでの定期イベント開催

夢空間では、省エネで長く愛される住まいを体感いただくモデルハウスを公開しています。この空間でステークホルダーの皆様とより繋がりを深めたい想いから、定期的にイベントも開催しています。2023年7月には、当社の建築工事等に出てくる廃材を活用した雑貨づくりワークショップを開催しました。木材を時計や写真たてにアップサイクル・リサイクルし、新たな暮らしを彩るインテリア雑貨を制作し、リサイクルについても共に考える機会にもなっています。



2023年度 環境関連法規の遵守状況

1. 環境関連法規等 遵守評価

No.名称	評価
	2024/11/6
1. 浄化槽法	○
2. 騒音規制法	○
3. 振動規制法	○
4. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
5. 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	○
6. 特定家庭用機器再商品化等の促進に関する法律(家電リサイクル法)	○
7. 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	○
8. 建設リサイクル法	○
9. 計量法	○
10. オフロード法	○
11. 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	○
12. 地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）	○
13. フロン排出抑制法（改正フロン法）	○
14. 大気汚染防止法	○

自治体の条例

No.名称	評価
	2024/11/6
1. 生活環境保全条例	○
2. 森林環境税条例	○

その他の規制

No.名称	評価
	2024/11/6
1. 福岡県北九州土木事務所 風水災害時の緊急対策工事等に関する協定	○

2. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

過去3年間に於いて関係法規に関する関係機関等からの指導・指摘等、訴訟もありません。適用法令を全てチェックし問題ないことを確認しており、これらの法規については随時見直しを行い、事業活動に適用される環境法規制・条例等の遵守に努めます。

2024年度 環境経営マネジメントについて

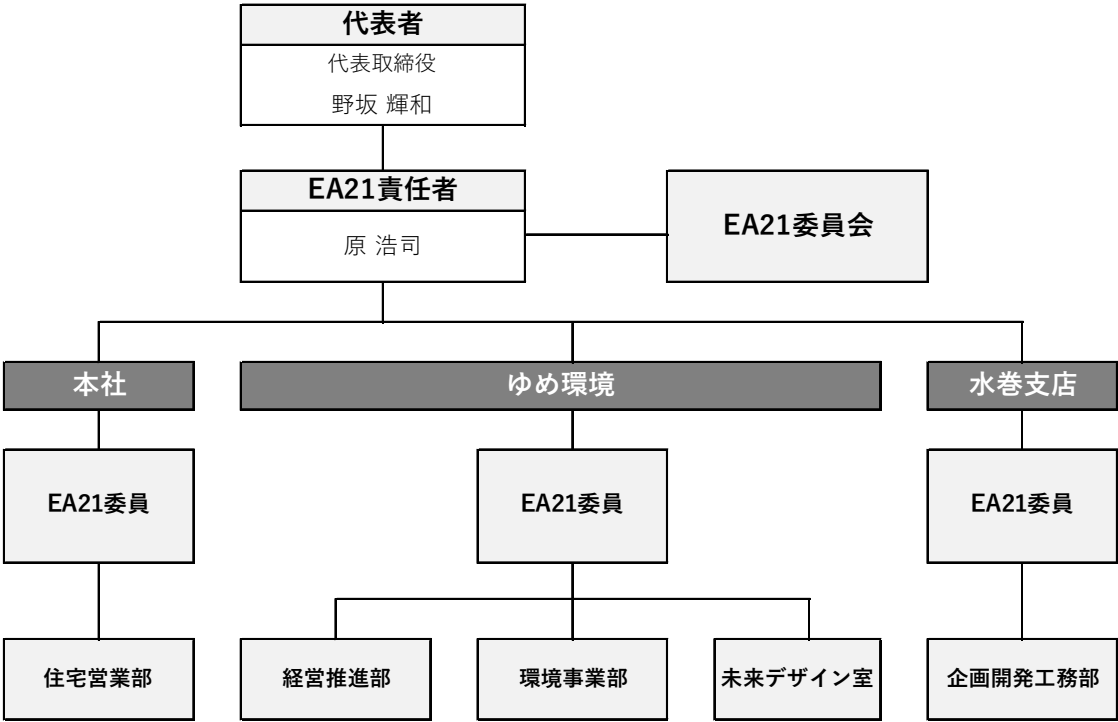
2023年度の結果を踏まえ、2024年度の環境経営は、実施体制と目標・活動計画を新しく設定し、現状に沿った環境マネジメントを実施してまいります。

1. 対象の組織と活動

対象組織 本社、ゆめ環境、水巻支店

- 対象活動**
- (1)土木工事業
 - (2)とび・土工工事業
 - (3)舗装工事業
 - (4)水道施設工事業
 - (5)解体工事業
 - (6)建築工事業
 - (7)産業廃棄物・一般廃棄物処理業（中間処理）
 - (8)産業廃棄物収集運搬業

2. 実施体制



役割・責任・権限

代表者	1 EA21責任者の任命 2 経営における課題とチャンスの明確化 3 環境経営方針の策定 4 経営資源の準備・確保 5 環境経営システム全体の評価と見直し	EA21委員会	1 EA21責任者の補佐業務 2 環境経営目標及び環境経営活動計画の実施促進・維持管理 3 環境教育の実施 4 その他EA21に関する業務全般
	EA21責任者	EA21委員	1 拠点における環境経営活動の推進 2 拠点におけるEA21に関する実績把握と報告
		従業員	1 環境経営活動の実施 2 問題点の是正処置の実施

2024年度 環境経営マネジメントについて

3. 2024年度 環境経営目標

KPI項目	サイト 区分	単位	基準年	中期目標		
			2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1. CO ₂ 排出量削減						
CO ₂ 排出量	全体	(kg-CO ₂)	250,189	1%削減	2%削減	3%削減
				247,687	245,185	242,683
	事務所	(kg-CO ₂)	30,837	30,529	30,220	29,912
	破碎施設	(kg-CO ₂)	217,737	215,560	213,382	211,205
		(kg-CO ₂ /万円)	15.31	15.16	15.00	14.85
	現場	(kg-CO ₂)	7,103	7,032	6,961	6,890
電気使用量の削減						
	全体	(kWh)	43,677	1%削減	2%削減	3%削減
				43,240	42,803	42,367
	事務所	(kWh)	22,602	22,376	22,150	21,924
	破碎施設	(kWh)	1,929	1,910	1,890	1,871
	現場	(kWh)	19,146	18,955	18,763	18,572
		(kWh/現場)	445.3	440.8	436.4	18,571.6
燃料使用量の削減						
	破碎施設 軽油 (自社搬入出 量あたり)	(L)	83,936	1%削減	2%削減	3%削減
				83,097	82,257	81,418
	事務所 ガソリン	(L/t)	6.72	6.66	6.59	6.52
		(L)	7,320	7,247	7,174	7,100
2. 廃棄物排出量の削減						
一般廃棄物排出量	事務所	(kg)	150	1%削減	2%削減	3%削減
				148.5	147.0	145.5
社員1人あたり一般廃棄物排出量	事務所	(kg/人)	7.89	7.82	7.74	7.66
建設廃棄物再資源化率	現場	(%)	69.5	70.5	71.5	72.5
3. 水資源使用量の削減						
水使用量	事務所	(m ³)	916.0	1%削減	2%削減	3%削減
	破碎施設			906.8	897.7	888.5
搬入量あたり水使用量	破碎施設	(m ³ /t)	0.109	0.108	0.107	0.106
4. グリーン購入の推進						
グリーン購入品目数（事務用品等）	事務所	(点)	36	維持	維持	維持
				36	36	36
5. 環境保全活動の実施						
地域活動参加回数	全体	(回)	8	維持	維持	維持
				8	8	8
6. 地域における住環境の課題解決						
住宅建築棟数	事務所	(棟)	3	増加	増加	増加
				7	8	9
中間処理後資源物(木チップ等)搬出量	破碎施設	(t)	8,591	増加	増加	増加
				8,991	9,391	9,791

事業年度 6月1日～翌年5月31日

- ・CO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り

【事務所、破碎施設】ミツウロコヴェッセル 調整後排出係数 0.469kg-CO₂/kWh

【建設現場】九州電力 調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh

- ・自社で購入・使用する化学物質はないため、化学物質使用量削減目標は除外

2024年度 環境経営マネジメントについて

4. 2024年度 環境経営活動計画

KPI項目	サイト 区分	活動内容
1. CO ₂ 排出量削減		
電気使用量の削減	全体	①未使用時の電気消灯の徹底 ②設備電気不要時の負荷遮断 ③設備のアイドリングストップ ④業務IT化による残業時間削減 ⑤昼休みの消灯 ⑥建築現場での節電奨励
燃料使用量の削減	事務所 破砕施設	①エコドライブの推進 ②アイドリングストップの徹底 ③重機の定期検査 ④破砕作業の効率的実施 ⑤破砕機稼働後の清掃 ⑥運搬車両の燃費推移計測
2. 廃棄物排出量の削減		
一般廃棄物排出量	事務所	①廃棄物の分別徹底 ②リユース・リサイクル活動の展開 ③排出量の秤量管理 ④5S活動の実施
建設廃棄物再資源化率向上	現場	①廃棄物管理を強化し排出実績を分析 ②分別方法の見直し ③リサイクル委託先の見直し・検討
3. 水資源使用量の削減		
水使用量	事務所 破砕施設	①重機や車両等の計画的洗車実施 ②破砕作業時の計画的散水実施 ③雨水の活用検討
4. グリーン購入の推進		
グリーン購入品目数（事務用品等）	事務所	①5S活動による備品の在庫管理徹底 ②購入時の調査検討
5. 環境保全活動の実施		
地域活動参加回数	全体	①対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施 ②地域開催のセミナー等での登壇 ③地域開催のイベントへの参加 ④地域団体やイベント等への協賛・寄付の実施
6. 地域における住環境の課題解決		
住宅建築棟数	事務所	①モデルハウスへの来場活動実施 ②定期イベントの開催 ③SNS、HP等メディアでの情報発信 ④ZEH住宅の提案・発信
中間処理後資源物(木チップ等)搬出量	破砕施設	①既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施 ②業務IT化による営業活動時間の確保

1. 2023年度 環境経営活動レポート 総合評価

今年も業務に併せて、環境配慮の推進及び活動お疲れ様でした。2013年度から始めた活動も10年を越えました。活動の中心となる、電気水道及び化石燃料の使用の見える化を通じて、年々活動意義を高めつつ、精度が上がってきました。当初は、環境事業における優良認定制度の認定取得と、業界のイメージアップを主な目的（インセンティブ）でした。

当社では、環境活動に併せて以前より行っていたCSR活動の進化、BCP策定、SDGsへの取組の基盤となったのではないのでしょうか？

現在、すべての業界で脱炭素に向けた取組は必須となっており、業種によっては取引条件に大きな影響を与え、企業永続のキーワードとなっています。

我社においても、環境事業における脱炭素化における今後の施策として、廃棄物の減容化、リサイクル製品の付加価値向上、省力化、既存設備の電氣化を段階的に行っていくことが、今後益々地域から必要とされる企業成長へと繋げていくことが重要です。

また、住宅事業においては、3年前より全棟ZEHに方針のもと、100%を達成しています。市場が縮小する住宅業界において、事業を通じて地域の脱炭素社会に向け、お客様と共に価値を共有していくことが出来る可能性を持った事業となります。その他建設事業においてもZEBの推進を国策の支援のもと推進していきたいと思っています。

今年度も、我社の全事業において、様々な改善を行いました。中でも運搬業務の内製化、建設事業の大型化を行うことで、我社の売上や収益率が大きく改善しました。併せてスコープ3の部分であった、環境負荷も自社のGHGの排出数量の見えるようになりました。

結果、成長や業務改善に伴って基準年度と比較が非常に難しくなりました。ただ、今後は我社の事業活動のみならず、協力会社も含めた、生産過程におけるGHGの算出は必須になってきますし、私たちの本業がサービス提供終了後に地域社会にGHGの削減の観点から近い将来評価される日がくることを意識しなければなりません。

その基盤となるのは、日々の削減努力と次世代に向けた責任を果たしていくことの意識が大切です。目の前のことだけではなく、大きな視点と意義を持って活動を継続してもらいたいと思います。『脱炭素×経営＝より良き環境を次世代に繋ぐ』責任が私達にはあります。よろしくお願いいたします。



このまちのくらしを もっとやさしく、うつくしく。

たおやかな川の流れと緑の風。
自然と人が共生するこのまちで半世紀。
私たちは地域と共に営みを続けてきました。

くらしの基本である家を建てる。
草木をリサイクルして肥料やエネルギーに変える。
野菜や果物を育てて収穫する。

毎日の生活に寄り添って、
こうした良好な循環を広げることが
私たち野坂建設の使命です。

まちの人々の笑顔のために、
愛すべきこのふるさとをもっとやさしく、うつくしく。

人と地域をめぐる「ありがとう」が
よりよい未来を創ります。



